

政策研究センター リサーチ・プロジェクト 成果報告書

提出日: 2020/2/26

申請者(リーダー): 氏名 高橋和志 職名 教授

リサーチ・プロジェクト名:

(和文) COVID-19下およびPost COVID-19における最貧困層の生計調査

(英文) Livelihood Survey for the Ultra-poor under and post COVID-19

期間(yyyy/mm/dd): 2020/10/1 から 2021/2/26 1年間

共同研究者: 氏名 職名 所属機関・部局名 (備考)

共同研究者1 Abu Shonchoy Assistant Professor Florida International University

共同研究者2 Yuri Kim Assistant Professor 東京大学

共同研究者3 倉田正充 准教授 上智大学

共同研究者4 黒崎卓 教授 一橋大学

共同研究者5

リサーチ・プロジェクトの目的

COVID-19による被害は、特に貧しい人に程集中しやすいことが危惧されているが、その実態を捉えることは難しい。本研究の目的は、科研費で調査してきたバングラデシュの対象180家計を再調査し、通常の農閑期と比較し、COVID下(およびPost-COVID)の最貧困層の生活がどのように乖離・回復するかを詳細に分析することにある。

研究成果の概要(800字程度) ※新型コロナウイルスの影響により、予定どおりの実施が難しかった場合にはその理由:

2020年10月から2020年12月にかけて、計6回の家計調査を実施した(一部は対面ではなく、簡易電話調査)。COVID及びその他の自然環境の影響により、対象180家計のうち、9家計が他地域へ移住し、追跡調査ができなかったが、その他の家計については、これまで集めてきたデータとの結合に成功した。データのクリーニングにやや時間を要したため、詳細な分析はまだ行っていないが、家計の消費面について分析を行ったところ、主要食物(コメなど)の消費は、COVID前と比べて大きな減少は見られなかった。これは、対象住民が極貧層であり、既に生存維持ぎりぎりの生活を送っているため、減少の余地が少なかったという理由のほか、いくつかのNGOが食糧援助を行っていることから、食糧消費の落ち込みが少なかったことが考えられる。後者の結果は、海外の研究者がエチオピアの貧困層を対象として行った研究成果と整合的である。ただし、これらは、まだ暫定的な結果であり、頑健な結論を出すためにはさらなる分析が必要である。

研究成果:

[別紙\(\(成果報告書\(研究成果一覧\)\)に記入](#)

その他、研究成果として特記すべき事項:

※政策研究センターのリサーチ・アシスタント(RA)雇用にて採択されたプロジェクトについては、**RAの具体的な仕事内容を記載してください。**また、RAを雇用したことによって得られた研究成果(例:RA氏名が記載された①論文発表、学会発表など。予定も含む。)があれば必ず記載してください。

(全ての項目含め、1頁以内で記述してください。)

成果報告書(研究成果一覧)

研究成果一覧:

(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)

(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。))等掲載)

※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。

※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

著者	⁰ 件 標題	雑誌名 /所収図書 の編者・図書 名・出版者等	巻・号 /章・節	¹ 件 発行年	開始 ペー ジ	終了 ペー ジ	⁰ 査読 (有=1)	⁰ 国際共 著 (yes=1)	DOI	⁰ オープン アクセス (yes=1)
1										
2										
3										
4										
5										

図
書:
※
冊

著者・編者	⁰ 件 図書名	出版社	発行年月	総ページ数
1				
2				
3				
4				
5				

口頭報告・学会発表等:

※査読付きの学会論文集は「論文の区分」で報告し、査読なしの学会論文集は「学会発表の区分」で報告してください。

※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

報告者等	¹ 件 論題	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1 高橋和志	Does Commitment Savings Alter Seasonal Poverty Dynamics among the Ultra-poor? Evidence from High-frequency Data.	KDIS-3ie-ADB-ADB I Conference on Impact Evaluation	2020年11月17日	オンライン
2				
3				
4				
5				